1　奈良県教職員の資質向上に関する指標について

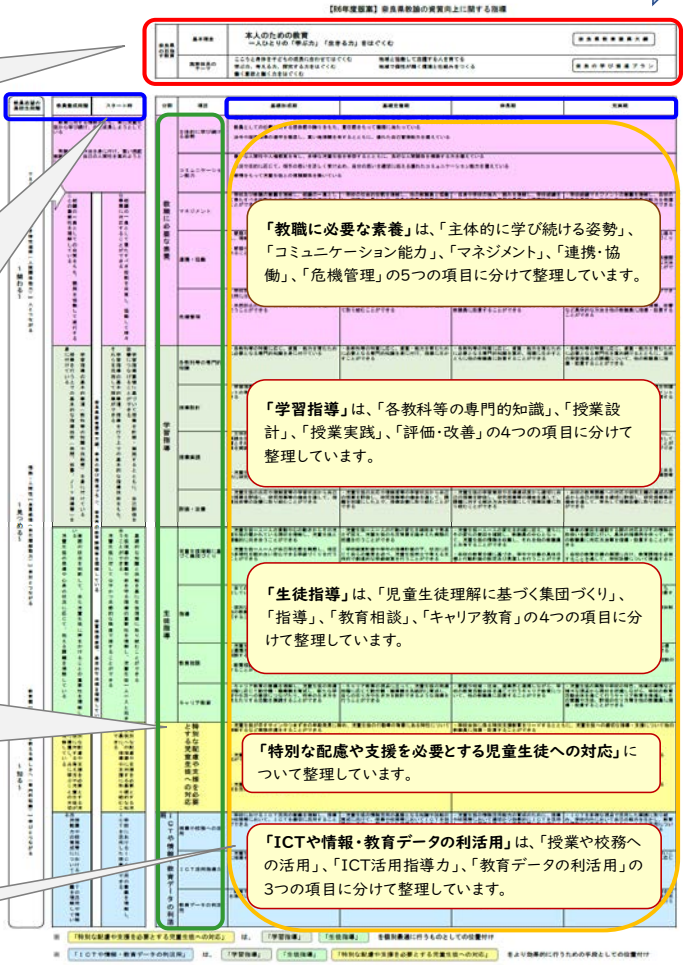
奈良県教職員の資質向上に関する指標の見方・活用について

平成29年4月1日に施行された教育公務員特例法等の一部を改正する法律に基づき、奈良県では、「奈良県教員等の資質向上に関する指標」を策定しました。本指標の策定においては、教員等の資質向上を担う任命権者と教員養成を担う大学等の共通認識の下、教員等が高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付けるべき資質を明確にすることを、その趣旨としています。

【指標の見方】

キャリアステージに応じて、把握・計画・実行・評価・改善を繰り返しながら、必要な資質・能力を身に付ける

（例）教諭の資質向上に関する指標



奈良県教育の目指す方向性を示した「奈良県教育振興大綱」で示された「教育施策の基本方針」に基づいて作成された「奈良の学び推進プラン」を踏まえ、指標を策定しています。

横軸には、教員養成段階スタート時から充実期までの「キャリアステージ」を示しています。
①基礎形成期は、初任校在任期間
②基礎定着期は、中堅教諭等資質向上研修を終えるまでの期間
③伸長期は、学年や分掌の中心的な役割を果たし、授業・学校経営のモデルを示すことが期待される期間
④充実期は、教員集団の中心として、リーダーシップを発揮して、学校経営等に参画する力を付けていることが望まれる期間
キャリアステージはあくまでも自己のキャリアに応じた目安として設定しています。

縦軸には、教職員として付けたい力「資質・能力」を示しています。分野として、教職に必要な素養、学習指導、生徒指導、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応、ICTや情報・教育データの利活用の5つに分け、さらにその分野を分類し、17項目に整理しています。

各ステージで身に付けたい資質・能力を目標として示しています。

「教職に必要な素養」は、「主体的に学び続ける姿勢」、「コミュニケーション能力」、「マネジメント」、「連携・協働」、「危機管理」の5つの項目に分けて整理しています。

「学習指導」は、「各教科等の専門的知識」、「授業設計」、「授業実践」、「評価・改善」の4つの項目に分けて整理しています。

「生徒指導」は、「児童生徒理解に基づく集団づくり」、「指導」、「教育相談」、「キャリア教育」の4つの項目に分けて整理しています。

「特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応」について整理しています。

「ICTや情報・教育データの利活用」は、「授業や校務への活用」、「ICT活用指導力」、「教育データの利活用」の3つの項目に分けて整理しています。

※　育成指標の種類は、職の専門性を考慮して「教諭」「養護教諭等」「栄養教諭等」「学校事務職員」「校長」「副校長・教頭」の6つの指標を策定し、「幼稚園教員等」の指標モデルを示しています。職種に応じて求められる資質・能力（分野・項目）を示しています。

【指標の活用】

教職員としての活用方法

① 各ステージにおける教職員として求められる姿の把握
② 定期的な自己評価と自身の状況の明確化
③ 自身の課題改善やさらに高度な段階を目指す取組の実践
（OJT、自主研修、校内研修、法定研修及び校外研修等）

※ RPDCAサイクルに基づき資質・能力の向上を目指す。

管理職としての活用方法

① OJTにおける指導助言
② 目標管理の面談等
③ 校内研修の推進
④ 校内における初任者研修等の指導
⑤ 教育研究所等の校外研修の奨励

校内研修での活用例

活用例①初任者研修等
校内における研修で目指すべき姿として活用する。

活用例②研究授業
研究授業において、経験年数に応じた指導力の目標を研究主任や授業者が設定する等、授業改善の視点として活用する。

活用例③学年経営・学級経営・教科指導
学年経営や学級経営、教科指導等の部会において、各課題を解決する上での取組とともに、必要となる資質・能力を高めるために、先輩教員から若手教員に自身の経験を語り伝える際の視点として活用する。

活用例④授業改善・学校運営
教育活動や学校運営について設定した目標や教科で作成したシラバス等と指標とを照らし合わせ、自らの経験年数に求められる資質・能力を確認するとともに教諭としての成長目標を設定する。組織における自己の役割を考えて、組織の改善につなげていく。